VOICE

修了者の活躍事例

株式会社丸松建設企画開発室の
金城亜紀乃さん
にインタビューしました。

建築施工技術科
（6か月訓練 企業実習付き）

令和3年10月　入所
令和4年3月　　修了
令和4年4月　　入社

●修了者の声

なぜ、建築施工技術科を選んだのですか？

前職は保険事務センターの事務職員（正社員）として働いていました。祖父と兄が建築関係の仕事をしており、以前から建物を造る仕事に興味を持っていたので転職を決意しました。

施設見学会に参加する前は、住宅リフォーム技術科に応募しようと思っていましたが、施設や設備を見学し、カリキュラムなどの説明を聞いたところ、自分が希望する職種（職人）になるには、建築施工技術科の方が良いことがわかり、志望を変更しました。

建築施工技術科での訓練は、いかがでしたか？

入所前は座学が多い印象を持っていましたが、いざ入所すると実習が思った以上に多く、より実践的であると感じました。

建物の構造を学ぶ授業や左官作業は、実際の仕事の役にたっています。また、測量器具の取扱いや足場の組立て、小型移動式クレーンや玉掛けなど取扱いに知識やコツ、資格がないと行えない技能・技術も習得もできました。

特に木造施工実習で力を合わせて建てた東屋は、楽しい思い出の一つになっています。

企業実習先は、どうやって決めましたか？

企業実習先を決めるために積極的に企業情報の収集を行いました。建設業に携わる人々に会い、話を聞くことで、複数の企業から「実習に来てもいいよ。」と声いただきました。結果的に現在勤めている丸松建設に行くことにしましたが、その理由は棚原社長と面談し、仕事に対する考え方や人柄が自分にマッチしていると思えたからです。

企業実習では、現在の業務とは異なる施工管理と塗装工の体験をしました。実習中に社長から「わが社で働いてほしい。」と声をかけられ、就職に至りました。

●採用者の声

株式会社丸松建設
代表取締役
棚原　義隆 様

家づくりの仕事は、お客様との面談から始まります。お客様と共に考え、ときには共に悩み、最終的にそれぞれのご家族に合った家がカタチとなり、それが何十年も残る素晴らしい仕事です。

金城さんは、入社してまだ２年足らずですが、持ち前の明るい性格と真剣にお客様と向き合う姿勢で、どんどんと受注につなげてもらっています。

ポリテクセンターさんの付加価値の高い訓練に、これからも期待しています。

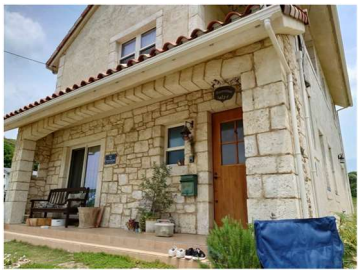
会　社　概　要

株式会社丸松建設　　ポリテク女子が全力で活躍中

＜所在地＞沖縄県沖縄市　＜創立＞昭和44年12月　＜事業内容＞建築工事業、とび･土木工事業、鋼構造物工事業、大工工事業、内装仕上工事業、石工事業、舗装工事業、屋根工事業、解体工事業、管工事業、水道施設工事業、タイル･レンガ･ブロック工事業

＜丸松建設の取り組み＞

生活する人、働く人、訪れる人に喜ばれ、安心で快適に過ごせる空間の提供を目指しています。常にお客様の立場に立ち、「より満足していただけるためにはどうすればよいか」を考え、提案や意見交換を行い、お客様の想いや要望を建物に反映しています。施工管理、環境への配慮はもちろんのこと、土地が持つ特徴を活かし、永年培った技術やノウハウを最大限に活用し、お客様に満足していただける建物を安心・安全施工で提供しています。



金城亜紀乃さんの業務

モルタル造形全般をまかされています。基本的に担当は自分ひとりなので、打合せ、デザインから材料の手配、施工まですべての作業をひとりで行っています。

沖縄で需要が見込まれる分野なので、新しい技術を学ぶために県外まで研修を受けに行っています。

モルタル造形以外の業務として、会社の広報媒体のデザインなども手掛けています。